

# 海津木苑施設等啓発

資料.3-1

## 1. 海津木苑施設等啓発 【実績】

No.	月日	曜日	啓発内容	団体名	参加人数
1	8月18日	火	し尿処理教育部会学習会	古賀市学校人権教育研究協議会	64名
2	9月9日	水	施設研修（ゲストティーチャー）	舞の里小学校4年生	48名
3	10月6日	火	施設研修（ゲストティーチャー）	古賀東小学校4年生	96名
4	10月16日	金	施設研修（ゲストティーチャー）	花見小学校4年生	89名

1. 施設研修（し尿処理教育部会学習会） 8月18日（火）64名

写真省略

2. ゲストティーチャー（舞の里小学校4年生） 9月9日（水）48名

写真省略

3. ゲストティーチャー（古賀東小学校4年生） 10月6日（火）96名

写真省略

4. ゲストティーチャー（花見小学校4年生） 10月16日（金）89名

写真省略

1. 今回受講された研修はいかがでしたか？

とても良く理解できた	理解できた	半分くらい理解できた	あまり理解できなかった	ほとんど理解できなかった	未記入
38	18	1	0	0	4

◇アンケート集計表◇

研修名	快適な住みよいまちをめざして『排育』		
申込団体	古賀市学人研し尿処理教育課題部会	アンケート回収枚数 (受講者数)	61枚(64人)
<b>*受講者の感想</b>			
○ 排育という言葉は初めて聞きましたが、食育と同等に、子どもたちへの教育の上で重要だと感じた。			
○ 「排泄行為は誰もが当事者である」という言葉が大変印象的でした。これからも、子どもたちの人権感覚を養えるよう、排育に取り組んでいきたい。			
○ 自分が子どもの頃も、大便に行くのがなかなか恥ずかしい部分があった。偏見による差別を生まないためにも、しっかりと指導していきたい。			
○ いつも当事者意識を持つことの大切さを実感させられます。自分たちの目で耳で肌で確かめることが大切だなと考え、子どもたちに伝える、体験させるように取り組んでいく。			
○ し尿処理施設が今日まで古賀市の人々の暮らしを支えてきたのは、撤去と受入の背景や、古賀市の思い、施設の努力があってこそだと分かりました。施設ではより安全な施設をめざすだけでなく、人権問題に向き合い、よりよい社会のために活動しているということも分かった。			
○ 受入に反対していた人々への「施設に偏見があるのでは」という言葉には自分自身にも気づかされるものがあった。古賀市が住みやすく美しいまちであることの裏には、し尿処理にたずさわる人々の苦勞と努力があったと思った。			
○ 「排育」という語句を初めて知った。学校のトイレで排泄をすることを恥ずかしく思う生徒は年々減ってきているように思いますが、校外の施設に対する正しい理解を促すための教育は、今まで取り組んだことがありませんでした。改めて教育の大切さを実感しました。			
○ 改めて「排育」についての大切さを考えさせられます。施設がないと私たちの生活は今のよう便利で豊かになっていないのに、どうしても目を向けようとならない現実があります。気づいていない、見えていないだけで様々な人や施設があるおかげで生活が送れていることを子どもたちとともに考えていきたい。			
○ 食品工場がたくさんある古賀市の歴史に海津木苑がこんなに大きな影響を与えていたことを初めて知りました。し尿処理に関しては全ての人にとって必要不可欠であるにも関わらず、住民が偏見にさらされたことは人間の悪い部分であり、それを変えるために教育の果たす役割はとても大きいと思いました。「排育」を常に意識していきます。			
○ し尿という言葉を知ると、やはり汚い・臭いというイメージが子どもの頃はありました。しかし、その子ども時代しっかりと教育を受けることで、イメージで決めつけてはいけない大切な場所だということが認識できるので大事なことだと思った。			